



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)HOLSTEIN BLDG 新築工事(北海道庁スタイン農協同組合)	階数	4
建設地	札幌市北区北15条西5丁目20番243,244,245,246,249,250	構造	S造
用途地域	近隣商業地域・準防火地域・市街化区域・駐車場整備地区	平均居住人員	205 人
建物用途	事務所・学校・病院	年間使用時間	3,185 時間/年(想定値)
竣工年	2020年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	1,170 m ²	評価の実施日	2019年3月7日
建築面積	926 m ²	作成者	
延床面積	3,058 m ²	確認日	2018年9月9日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 68%
③上記+②以外の 68%
④上記+ 68%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>1階をピロティ駐車場とすることにより駐車台数を確保するとともに2方向からの出入りで周辺道路に負担をかけないように配慮しています。また室外機等の設備機器はすべて屋上に設置することにより周辺の暑熱環境や騒音の緩和に配慮しています。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>建物外皮の熱負荷抑制に配慮し、外壁にはグラスウール断熱材、建具にはLow-E複層ガラスを採用しています。また空調はパッケージエアコンを採用しています。</p>
<p>B 省資源等</p> <p>躯体と仕上げ材を容易に分別可能なものを採用することにより将来的な部材の再利用可能性向上への取り組みを行っています。</p>	<p>D 雪処理</p> <p>車両出入口の雪は出入口脇に堆雪させますが場合によっては駐車スペースを利用し堆雪させます。</p>
<p>C 緑化</p> <p>敷地内温熱環境の向上のために「札幌市緑の保全と創出に関する条例」で定められた基準を順守しています。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称)HOLSTEIN BLDG 新築工事(北海道ホルスタイン農業協同組合)

 ■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居-宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境					0.40	-	-	2.6
1 音環境				2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.52	-	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.04	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.04	-	-	
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				2.0	0.35	-	-	2.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.42	-	-	
2 外皮性能	省エネ	窓システムSC:0.68、U=4.35(W/m ² K)、外壁U=0.38(W/m ² K)、屋根U=0.26(W/m ² K)		3.0	0.28	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.30		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-	2.6
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-	
1 昼光率				1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00	-	-	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建築材料はF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00	-	-	
4.2 換気				3.2	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.35	-	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上ある。		4.0	0.29	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.35	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				-	-		-	
2 喫煙の制御				3.0	1.00		-	

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.2	
1 機能性			3.3	0.40	1.0	1.00	3.3
1.1 機能性・使いやすさ			3.2	0.40	-	-	
1	広さ・収納性		3.0	0.23	-	-	
2	高度情報通信設備対応	事務室はOAフロアでOA機器用コンセント容量が40VA/m ² となっている。通信は光ファイバー他複数の通信事業者が引込めるようにスペースが確保されている。	4.0	0.23	-	-	
3	バリアフリー計画		3.0	0.54	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.8	0.30	1.0	1.00	
1	広さ感・景観 (天井高)	事務室天井高3.0m	5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース	リフレッシュスペースが執務スペースの3.9%	4.0	0.23	-	-	
3	内装計画		3.0	0.44	1.0	1.00	
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.3	0.30	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			4.4	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	品確法における鉄骨の評価方法基準で等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源 定期的なメンテナンスを施すことにより30年以上	5.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 主に内壁はビニルクロス貼(PB下地)、床はタイルカーペットや長尺塩ビシートを採用	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 給水管:塩ビライニング鋼管、給湯管:ステンレス鋼管、排水管:硬質塩化ビニル管を採用 EIは不採用	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機を備えており、重要設備系を非常用発電機からバックアップ可能なようにしている。	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高は1階が4.15m、2階が4.095m、3階が4.550m、4階が3.70m、	4.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		建物全体の壁長さ比率=0.268	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			1.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	[BPI][BPI _m] = 0.54	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.59	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と仕上げ材が容易に分別可能。躯体+軽鉄+仕上材(断熱はグラスウールを使用)	5.0	0.22	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が2つある。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率=68%	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	省資源	燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄処理		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.33	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1 騒音			-	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.33	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外照明はピロティ駐車場及びエントランス前の庇のみで上方や周辺へ漏れ光の少ない照明器具を採用している。	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	(仮称)HOLSTEIN BLDG 新築工事(北海道ホルスタイン農業協同組合)				
建物用途	事務所・学校・病院				
延床面積	3,058.3 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	
	緑化	
	雪処理	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)		合計		19.5点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア	0.6 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.9 最低点 7.7)		合計		16.3点 /23.9点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.9 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.2 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.2 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	3.3 /4.6
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		9.2点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数